

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム スマイル園
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県出水郡長島町
記入者名 (管理者)	田中 雅典
記入日	平成 21 年 3 月 25 日

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフ全員で意見を出し合い作っている 新しい運営理念にひき続き盛り込み心掛けている	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員が一緒になり作り上げ、以前よりの理念を解りやすく身近な表現に変えたことで、日々の介護実践に活かされやすくなった。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議・家族会の中で、理念を説明しその実現に向けた方向への取り組みをテーマとしての話し合いなど行われている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	機会があるごとに立ち寄りの声かけなどを行っている。日常の会話の中で、季節の野菜のやり取りなど行なっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同集落の自治会行事等に参加の心がけ、また、散歩時の声かけなど積極的に行っている。運営推進会議で得た地域の情報を活かして、行事ごとに参加している。地域の団体等のミニバレーを行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町からの認知症高齢者介護に役立つ講演等の依頼もあり同一法人内で講習を受けた者が人材育成に一役かっている。	○ 介護保険係、地域包括支援センター等と在宅介護を行っている方の悩みを聞く場を作ってみてはどうかと話をした。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者による新鮮な気づきでの評価や、自分たちの介護を見つめなおす機会となることを理解しており、改善に向けて取り組んでいる。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での議事録を家族会でも報告したりして、新たな意見を出してもらいサービス向上に活かしている。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の担当者とも顔見知りで、私用で行った際にも声を掛けたり、気軽に相談できている。また、地域ケア会議に積極的に参加し密な連絡や相談の出来る体制が出来ている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護について学習し入居者のモニタリングで必要時対象となるか等話し合ったりしている。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の防止をはじめとして勉強し、人権を尊重する介護の実現を目指している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書にもと基いて十分な説明を心がけ、理解、納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、苦情の受付窓口を設けている。それに加え運営推進会議において第三者委員会の設置の方向で話を進めており、現在打診中である。	○
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の担当を決め、園便りの発送で暮らしぶりの紹介や、園からのお知らせ事項の伝達を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を発足し定期的に会をもち、意見、不満、苦情の取りまとめ、また、意見箱の利用や、苦情相談窓口など準備している。それに加え運営推進会議の一員として家族代表の参加を求め意見の反映に努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最終決定は法人代表者が主となっているが、毎月ミーティングを行ない、スタッフ間での意見、入居者の状況等の報告を密に行い意見の反映に努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態等に合わせて勤務時間やローテーションを変更できるような体制をとっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動は必要最小限に抑える努力をし、移動後には新しい職員だけの勤務とならないよう配慮している。また、職員、利用者ともに慣れるよう研修期間を設けている。	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体医療機関で開催される勉強会への参加を行なうようにした。	○ 地域のケア部会で勉強会開催のお願いをし、検討してもらっている。今後内部の研修を定期的に行なえるよう月の担当を決め、職員自ら課題を抽出しての定期的な勉強会を計画中。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護従事者が集まるケア部会議等へ参加し、情報の交換しサービスの向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人や園の懇親会を年に数回行っている。また、ミーティング後などの食事会やミニバレーも行っている。	○ 翌年度より職員旅行の計画を立てている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	例年介護福祉士及び介護支援専門員の資格習得、講習等を受けられるように配慮・援助している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談等ケアマネージャーが担当し、一貫して担当者が継続して相談を受けるようにしている。	○ 介護相談員派遣事業の受け入れを予定している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同 上	○	同 上
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援に応えられない状況や条件であっても相談をよく聞き、適切なサービスの紹介等心がけている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始時、ご家族やご本人の希望・状態に合わせ段階的にすすめるなどの配慮を心がけている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の住む地域の季節ごとの話題を提供しそれらに関する昔のことを教えて頂いたり、園での行事ごとや料理メニュー、又、ご本人の得意なことなど担当して頂いたり、教えて頂いている。また、スタッフの子供が来ていると一緒に遊んで頂いたり互いに支えあい必要とされている関係作りを心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会にて意見を頂き、良い園作りを一緒に考えている。また、行事へのご家族の参加を頂き、共に過ごす時間づくりを心掛けている。また、面会時や必要時の電話連絡で情報交換を行い、定期的な園便り発送により近況報告を行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の理解されている家人・知人の話を提供し話題作りをおこなったり、離れて生活していてもご本人の様子を園だより等で知らせ、身近に感じて頂けるようにしている。また、月2回以上の面会をお願いしている。	○	昨年より年賀状を書ける方には自筆で書いて頂き家族に出すようにした。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の住んでいた地区へのドライブ等やお墓参りを行い、支援に努めている。また、日常の話題にも地域のことを盛り込んでいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の個性や利用者同士の関係を見極めながら、得意、不得意をお互いが助け合えるような働きかけを行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	連絡を取り、その後の経過把握に努めている。また、施設外で会った時にも話をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の確認をサービス計画の立て直し、見直しで行ない、意向確認が困難な場合、生活歴をふまえたうえで日常の様子や会話の中から得た情報を活かし本人の意向に沿えるよう勤めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴の情報を取り入れるようにし、スタッフが情報共有を行いケアに活かすよう心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	時系列に記録をとり、また、1日を通しての入居者の状況がわかるよう記録を別にとっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の希望やご家族の希望を聞き、毎月のミーティング時に各入所者の現状について意見を出し合い介護計画の立て直しや見直しを行っている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化に合わせた計画となるように家族と密に連絡を取り、随時必要な見直しに努めている。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列な記録と、1日を通しての入居者の状況がわかるよう記録を別にとっている。また、毎日の申し送りや、職員間の申し送りノートを使ったり、ミーティング時に情報の共有に努めている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望で魚や野菜の差し入れや自家菜園で季節の食材が採れれば希望に沿ったメニューの変更を行ったりしている。また理美容院・歯科受診への送迎をおこなっている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防からの協力を得ている。小中学校、保育園、幼稚園へは慰問の依頼の働きかけを行い、年数回実施している。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の介護従事者が集まる地域ケア会議に積極的に参加して地域のケアマネジャーやサービス事業者と話し合いを行っている。	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連携はとれているがまだ協働はない。	○	介護保険係、地域包括支援センター等と在宅介護を行っている方の悩みを聞く場を作ってみてはどうかと話している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を獲得し適切な医療を受けられるように支援している。また、希望時は主治医に紹介状を書いてもらい受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関から定期的な訪問を受け、様子をよく理解できる関係を築き、受診支援を行なっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を常勤で配置し、他職員とも相談しながら支援している		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際、家族・スタッフで協力し訪問したり病院関係者と情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、終末期時に意向を確認する書類を作成し、方針の共有に努めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアのマニュアルを作成し重度化、終末期への対応に備えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>地域の包括支援センターの紹介を行ったり、ケ ア部会等利用し十分な話し合いや情報交換を行 いダメージが少しですむよう心がけている。</p>	
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない</p>	<p>重要事項説明書にプライバシーの保護に努めるこ とを明記し、プライバシーの保護に努めている。 記録等個人情報の記載されている書類はシュレッ ダー使用し処分している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけた り、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる</p>	<p>ご本人が選択したり考えられるようゆったりした 係わり合いで自己決定を尊重し、無理強いはしな いよう心がけている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている</p>	<p>希望に沿った支援を心がけ、出来る限り入居者 に合わせたケアを行っていけるよう心がけている。 また、普段の様子や会話の中からその方の思いが くみ取るよう心がけている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行 けるように努めている</p>	<p>理美容院へ行かれない方は送迎したり、理美容院 にも訪問して頂けるよう協力を頂いている。ま た、金銭のこともあり園でのカットを望まれる方 へはカットや毛染めなども行い希望に沿うよう努 めている。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>園での食材作りに力を入れ季節感やその成長ぶり を常々話題にし、楽しめるよう工夫している。 利用者の出来る範囲、また、気分に合わせて誘 いかけを行い一緒にしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の手持ちでの嗜好品も可能な限り楽しんでもらい、園で提供するおやつも希望の多い旬の物を取り入れ手作りしたりして提供している。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の状態にあわせパンツ、リハビリパンツの使用となっているが、排泄のパターンに合わせた誘導を行ったり、汚染の程度で朝夕の清拭等を行っている。また、失禁時の対応は羞恥心やプライバシーに配慮し行っている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望、タイミングに合わせることは出来ていないが、希望を取り入れながら入浴を楽しめるよう配慮している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は出来るだけ離床し軽作業等をして夜間の良眠を促すが、午睡をしたい方は、昼寝等休息のとれるよう配慮している。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの長所、短所に合わせ食事作りや洗濯物たたみ、園芸、手芸、毎月の飾り物の制作など好きなことを一緒に行い、個人の出来る事はしてもらい時間がかかっても見守っている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じ所持して頂いたり、出納帳を作り代理で管理したりしている。希望される方は買い物に出かける機会を設けている。	


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩やドライブに出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	秋の行楽や、桜の花見宴会、希望される方への遠方への大きなデパートでの買い物等支援している。また、ドライブで入所者の住んでいた集落へ行ったりしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されるとき電話の支援等子機を利用し居室で心おきなく話されるよう配慮したり、どうしても時間・回数が多い方では携帯電話を購入して頂いたり、手紙も不十分な部分をフォローし書いてもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	一人ひとりの居室に椅子を置き面会の際にはお茶を出してゆっくり過ごせるように配慮している。家族が宿泊できるように居室を広くとり簡易ベッドも貸しだす。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加し学び、拘束をしないケアを行っている。また、やむおえなく行う場合のマニュアル作り等も整えている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室入り口には鍵は付けておらず、玄関等は消灯後に鍵をかけて施錠までは入り口にセンサーチャイムをつけ対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	時系列に記録をとり、行動パターン把握に努め安全に配慮している。施錠までは入り口にセンサーチャイムをつけ対応している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や刃物等はスタッフルーム、洗剤は洗濯場とキッチンと決め保管している。個人で刃物等を保管されている方もおり、状態に応じて管理している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	環境整備をはじめ、一人ひとりの状態に合わせた移動援助、食事形態、与薬管理などを行っている。また、夜間の定時の見回りや火災を防ぐためのチェックリストでチェックし安全確認をおこなっている。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当のマニュアルや事故発生時のマニュアルを作成し、ミーティング時に定期的に訓練を行っている。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し訓練を定期的に行っている。また、火災時の地域協力隊の存在もある。訓練時都合のつく時は地域代表者に参加して頂けるよう働きかけている。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	介護計画の中にも取り上げ家族にリスクや対応策を説明している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い会話や表情観察からも異常の発見に努め、スタッフ間の申し送り等で周知を図っている。また、病院と隣接しているので必要時は速やかに連携が取れている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を受けており、スタッフも入居者の使用している薬の作用や副作用を把握しており、一人ひとりの状態に合わせた服薬管理を行い、服薬確認も行っている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	理解し排泄の状況の把握に努め、それに合わせたおやつの内容や食事の工夫、水分補給、適度な運動等の支援に努めている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食後、眠前の口腔ケアを行っている。誤嚥の多い方は毎食後口腔ケアをし、口腔内に食物残渣物が残らないように口腔内の清潔に勤めている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の摂取状態を把握し、体重の増減や栄養状態も把握し必要に応じた支援を行っている。月1回の定期採血にて栄養状態の把握をし状態に応じた対応を取っている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルを作成し発生しやすい時期には園外から持ち込まないように職員、面会者へも呼びかけたり、園内でも対応している。玄関先に消毒薬、マスクを設置している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い置きはせず前日の買い物で食材は新鮮なものを使用するようにし、調理用具は毎日消毒し冷蔵庫は毎週日曜日に清掃、消毒を行っている。	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周りが立地条件で坂道となっているのが難点だが、敷地入り口には看板を設置しており、建物までの道横には花壇を設け暖かい雰囲気作りを心がけている。また、建物周囲には菜園も設けている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファやテーブルを置き自由に過ごせるようにしている。明るい家庭的な雰囲気を出すために、テーブルクロスなどであたたかさを出している。また、夏は日差が強いため、すだれやよしず等を設置している。季節の花や制作物を飾っている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテーブル、一人掛けの椅子等を置きだんらんの場をつくっている。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使っていた布団やタンス、小物等使い慣れた物を気軽に持ち込んでもらい、その方の使いやすい位置と一緒に思考錯誤しながら配置している。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	訪室の機会を作り居室の換気、温度調整を支援し、共同空間は温湿計と皆さんの意見を伺いながら調整し居室は訪室時に換気を促したり、自室の場合は本人と話しながら個々に合わせた室温調整を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活を送れる ように工夫している	トイレ、ホールの壁には手すりを設置している。 障害物による転倒を防ぐ為、利用者の移動スペ ースは十分確保し安全な環境作りに努めている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	混乱を避けるためむやみに部屋の模様替えをしな い、生活サイクルを崩さないようある程度パター ン化したサイクルで安心感を持ってもらい外出や 季節の行事ごとで楽しみな変化作り等配慮してい る。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	建物周囲に菜園を設け種まきから収穫まで楽しめ るようにしている。また、天気の良い日は少し時 間があると病院との渡り廊下、テラス等に出て外 の風景を見たりしている。鶴の北帰航の時期は帰 航経路となっており、喜ばれている。	

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



## V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

\*お花見会や秋の行楽にご家族も参加いただき一緒に楽しいひと時を過ごしています。また、秋に法人の祭りを開催しており、ご家族はもとより町内の方が30名ほど集まり、職員の出し物やボランティアの方の出し物で楽しんでいただいています。  
 \*運営推進会議により地域からの行事参加の声をもらい、地域の方との交流が深まった。  
 \*家族会も家族の要望により年2回の開催となり、家族の意見を聞く場が増え、職員との信頼関係がより深まってきたように思える。  
 \*自家菜園があり、植え付けや収穫を入所者様と一緒にしたり、また、入所者様のご自宅に実った季節のものを一緒に採りに行き、食材として利用させていただいています。 \*スタッフの子供が頻繁に遊びに来ており、家族同然のように一緒に遊んだりして成長を楽しみにされています。